

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3992700号

(P3992700)

(45) 発行日 平成19年10月17日(2007.10.17)

(24) 登録日 平成19年8月3日(2007.8.3)

(51) Int. Cl.

E O 4 H 13/00 (2006.01)

F I

E O 4 H 13/00

H

請求項の数 3 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2004-240388 (P2004-240388)	(73) 特許権者	304042803
(22) 出願日	平成16年8月20日(2004.8.20)		有限会社おの
(65) 公開番号	特開2006-57328 (P2006-57328A)		宮城県白石市大川町8-10-1
(43) 公開日	平成18年3月2日(2006.3.2)	(74) 代理人	100080148
審査請求日	平成17年11月24日(2005.11.24)		弁理士 佐竹 良明
		(72) 発明者	小野 和美
			宮城県白石市大川町8-10-1 有限会 社おのの内
		審査官	星野 聡志
		(56) 参考文献	実開昭63-059970 (JP, U)
			登録実用新案第3023798 (JP, U)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 墓用花立て

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

下段の石材ブロックの上に支持軸を立て、該支持軸の周りに回動できるように上段石材ブロックを支持し、上段および下段の各ブロックの上面の、該支持軸から隔たった位置に、花を生けるための穴を穿設し、上段ブロックを回動すると、上段ブロックが下段ブロックの上に重なって下段のブロックの該穴が隠れ、あるいは、上段ブロックが下段ブロックの上から退去して下段ブロックの該穴が現われる墓用花立て。

【請求項2】

該支持軸が途中につばを有しており、そのつばより上部の部分を上段ブロックの中に挿入固定し、つばより下の部分を、下段ブロックの中に挿入固定したスリーブの中に挿入し、該スリーブ側の該つばと該支持軸側の該つばが互に当接するように構成した請求項1に記載の墓用花立て。

【請求項3】

上段ブロックの回動範囲を限定するために、一方のつばに突起を設け、他方のつばに該突起に係合する円弧状の穴または溝を設けた請求項2に記載の墓用花立て。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は墓に設置される花立てに関する。

【背景技術】

10

20

【0002】

従来の墓用花立ては、特許文献1に示すように、石材を壺状に加工したもので、墓石の前に左右に配置される。このような、従来の花立てでは、参拝する人が多いお盆時期に、花立てが花でいっぱいになってしまい、花立てに飾れない花が出てくる。

【特許文献1】特許公開2004-68426号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

この発明は、場所を取らずに花立ての容量を増大させることを課題とする。

【課題を解決するための手段】

10

【0004】

この発明の花立ては、下段の石材ブロックの上に支持軸を立て、支持軸の周りに回転できるように上段石材ブロックを支持し、上段および下段の各ブロックの上面の支持軸から隔たった位置に、花を生けるための穴を穿設し、上段ブロックを回転すると、上段ブロックが下段ブロックの上に重なって下段のブロックの穴が隠れ、あるいは、上段ブロックが下段ブロックの上から退去して下段ブロックの穴が現われるようにしたものである（請求項1）。

【0005】

お盆など献花が多いときは、上段ブロックを回転し、下段ブロックの穴が現れるようにする。こうすれば、上段と下段のそれぞれの穴を使ってたくさんの花を生けることができる。普段は、上段ブロックを下段ブロックの上に重ね合わせて、下段の穴が隠れるようにしておく。こうすれば、余分な場所を占有することはない。この場合、切り花は上段ブロックの穴を使って生けるようにする。

20

【0006】

支持軸にはその途中につばを設け、そのつばより上部の部分を上段ブロックの中に挿入固定し、つばより下の部分を、下段ブロックの中に挿入固定したスリーブの中に挿入し、両方のつば同士が当接するように構成することができる（請求項2）。こうすれば、上段ブロックを回転するとき、つば同士が摺動するので摩擦抵抗を小さくすることができ、小さな力で動かすことができる。

【0007】

30

上段ブロックの回転範囲を限定するために、一方のつばに突起を設け、他方のつばにその突起に係合する円弧状の穴または溝を設けることが好ましい（請求項3）。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

図1は花立て1を墓に設置した状態を示す。左右の花立ては左右対称であり、図2は左側の花立ての分解斜視図である。花立ては、それぞれが花崗岩等の石材から削り出した2段の直方体ブロック2、3から成る。両ブロックの平面的な形状はほぼ同一である。両ブロックには、上面前側に花を生けるための穴5を穿設する。

【0009】

上段のブロックの下面および下段ブロックの上面に、支持軸10を収める軸穴6を穿設する。支持軸はステンレス製で、その途中につば11を備えており、そのつばより上の軸部分を、接着剤を塗って上段ブロック2の軸穴6の中に挿入固定する。下段ブロック3の穴6には接着剤を塗ったステンレス製スリーブ12を挿入して固定する。このスリーブの中に支持軸10の下半分を挿入する。スリーブ12の上端にはつば13が固定されており、このつばに支持軸本体のつば11が当接し、上段ブロック2の重量は、互に当接するこれら2枚のつば11、13を介して下段のブロック3に伝えられる（図3参照）。2枚のつば同士は滑らかに摺動するので、上段ブロックは小さな力で回転することができる。

40

【0010】

上段ブロック2の回転範囲を規制するために、いずれか一方のつば、ここではスリーブ側のつば13に円弧状の穴14をあけておき、他方のつばである支持軸側のつば11の下

50

面にはこの円弧状穴に係合する突起15を設ける。上段ブロック2を回動すると、突起15が円弧状穴14の中を移動し、円弧状穴の端に突き当たるとそれ以上は回らない。実際には、上段ブロック2は、下段ブロック3と重なり合う状態(図4上段)とその状態から外側に120度ほど振った状態(同図下段)の間を回動することができる。なお、円弧状の穴は溝でもよい。

【0011】

花立て使用法であるが、図1の右側の花立てのように、普段は上段ブロック2を下段ブロック3の上に重ね合わせた状態にしておき、上段ブロックの穴5だけに花を生ける。生ける花がたくさんあるときは、図1左側の花立てのように、上段ブロックを外側に回動して下段の穴5を開き、上段と下段の両方の穴を使って花を生ける。

10

【0012】

この実施例では、図3に示すように、花を生ける穴5は貫通穴であり、各穴にステンレス製の水受けカップ7をはめ込んで花を生ける。カップ7がなくても花を生けられるように、穴5に底を設け、穴の中に水を溜められるようにしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】墓の全体斜視図である。

【図2】花立ての分解斜視図である。

【図3】花立ての断面図である。

【図4】花立ての平面図である。

20

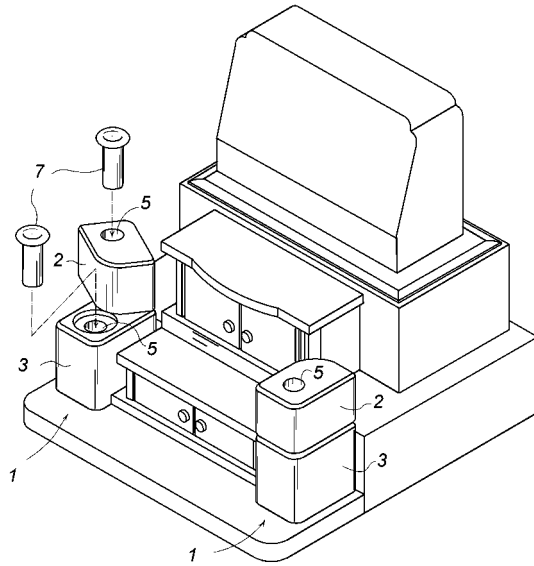
【符号の説明】

【0014】

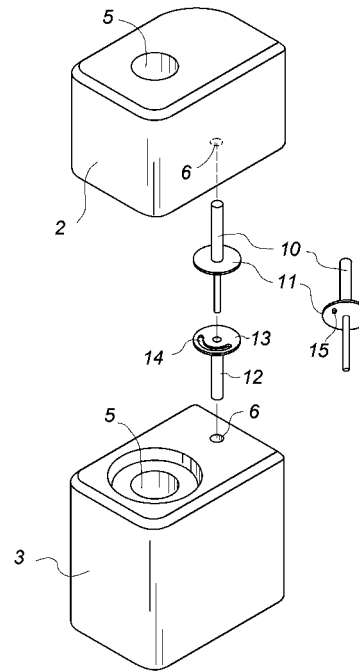
- 1 花立て
- 2 上段ブロック
- 3 下段ブロック
- 5 花生け穴
- 6 軸穴
- 10 支持軸
- 11 支持軸本体のつば
- 12 スリーブ
- 13 スリーブのつば
- 14 円弧状穴
- 15 突起

30

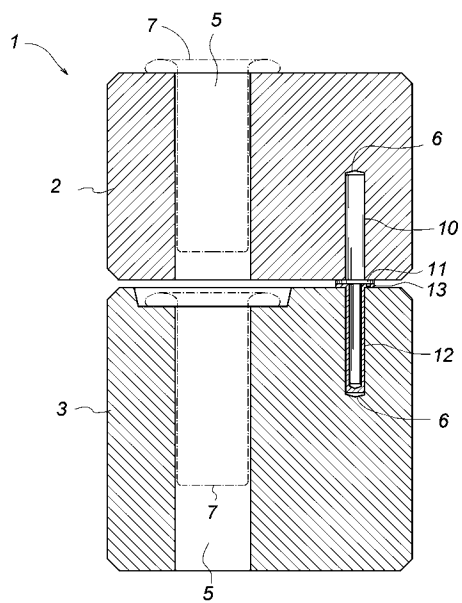
【図 1】



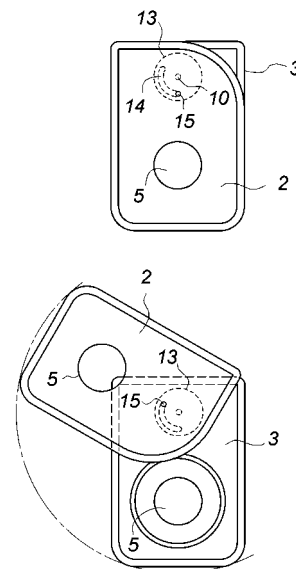
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E 0 4 H 1 3 / 0 0

A 4 7 G 3 3 / 0 0

A 4 7 G 7 / 0 2